精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた地域の課題の共有のためのアンケート集計

支援をする、受ける中で感じる文京区の地域特性

（医療機関・相談窓口・サービス等の充足状況、住民性・生活環境等）

(1) 医療機関

【医療】医療機関に恵まれている。
【医療】大学病院等の大きい病院が多い。
【保健】医療機関数だけで言えば、区内には大学病院や中規模医療機関、地域クリニックと充実している
【医療】大学病院・総合病院がかなり多く、有床の精神科医療施設も多い。
【福祉】大学病院があるので、他疾患の治療ができる
【一般】大学病院が多いが、精神保健福祉との連携は特に強いようには思えない。
【福祉】精神科・心療内科等診療所が比較的多いが、単科の精神病院は少ない
【保健】入院病床があるのは大学病院のみのため、重症者・緊急時・レスパイト等の入院が困難
【保健】うつやストレス性疾患等の軽症な精神疾患を扱うクリニックは増えており気軽に受診しやすくなっているが、統合失調症等のいわゆる精神病をしっかり診てくれるところやデポ剤を扱ってくれるクリニックは少ない
【医療】区内の精神病床は、急性期を除く入院医療に対応できず、遠方の病床へ転院が多い。

区内は大学病院をはじめとした精神科の医療機関が多く、病床数も多い。
その反面、入院病床があるのは大学病院のみのため急性期を除く入院医療の対応が難しいという側面もある。

(2) 相談窓口

【一般】相談に対して、支援の輪がつながっているのが心強いです。
【医療】医療機関や相談窓口が多く、地域のケアが充実しているように思います。
【医療】文京区で訪問看護をさせていただく前に他のいくつかの区で訪問看護をしてきましたが、他の区よりも保健師さんたちがご利用者様に積極的に関わってくださっているのではないかと感じています。自分の担当の保健師さんのお名前、お顔を知っていて、定期的ではなくともかかわっていただいているご利用者様が他の区より多いと感じています。
【福祉】拠点事業等で、福祉圏域が設けられている
【医療】基幹相談支援センターをはじめ、障害福祉サービス、訪問系サービスが一通り揃っている
【福祉】精神という障害の枠に限らず、３障害間での研修等もあり、顔の見える支援者間での連携が取れている点は強みと感じます。
【医療】文京区は学校や大学も多く、学生や留学生が多く居住、通学しております。精神疾患を抱えながらも就学している学生が卒業後に地域での相談・支援を受けたり、留学生が地域でのサービスを受けたりすることについて、文京区は需要も多くあると考えられます。しかし、支援を必要としている方にはそういったサービスのアクセス方法を知らない、わからないといった方も多いようです。

基幹相談支援センターや地域生活支援拠点など、相談窓口がそろっている。
支援を必要としている人の中には、相談窓口へのアクセス方法を知らないという人もいる。

⑶ 住民性

【福祉】知識やネットワークがある住民は多いので、理解が進むと、住民主体の活動の広がりは早い
【一般】教育・文化に関心を持った住民の比率が高いように思う。←支援をすることに対する意識や理解は得やすいように感じる。一方で，近年は住民相互の関わりが希薄になっている。←地域住民による積極的な支援は難しい状況と思う
【福祉】流入人口も多く、目的意識を持って転入してくる人も多い。長く住んでいる住民と新しく入ってきた住民との地域との関わりに対する温度差もあり、一概に地域と言っても一つにまとまりにくい
【福祉】地区によっては、住民の見守りや助けあいがあるところもあるが、発見された課題が専門職につながらないところもある。
【保健】住民間の課題共有は弱い、地域のコミュニティーが薄い印象あり。そのせいか、近隣苦情が他区と比べると激しくない。その反面、家族が問題を抱え込みやすい状況であると感じる
【福祉】高収入の方が多い中で、声をあげづらく、低所得層が孤立しがち。教育へ熱心な家庭が多い。教育相談はするが、福祉相談などはハードルが高い
【福祉】裕福な家庭が多く、親世代が金銭面で解決しようとして、結果自立を阻むことになっている
【保健】経済的に恵まれている家庭が多く、家庭内で何とか対応し、外部に支援を求めない傾向がある。家族の支援が立ち行かなくなって初めて（親が要介護や亡くなる等）相談に至る等で、病状や問題が重篤化してからしか対応せざるを得ないことがある
【保健】精神障害を隠して引きこもりの生活が長く、親が高齢化してから問題となることが多い

転入人口も多く、地域としてまとまりにくい。地域のコミュニティーが薄く、近隣苦情は激しくない。地域で発見された課題があっても専門職につながりにくい。
高収入の人が多く、家庭内で対応し、外部に支援を求めない。低所得層が孤立しがちで、福祉相談へのハードルが高い。精神障害を隠しての引きこもりの生活が長い人もいる。

⑷ 生活環境

【一般】地価、家賃が高いので居住探しの際に困難
【福祉】区内に地下鉄が南北・東西に３路線走っており、バス路線（Ｂぐる含む）が走っており、公共交通機関が多い。鉄道もバスも都営が走っており、パスを利用することができる
【医療】交通網も発達しており、近隣エリアへの移動もしやすい。
【保健】静かな住環境で治安の良さが感じられる
【保健】高所得者層が多いという印象
【医療】教育機関、交通環境に恵まれている
【一般】教育機関(中高大学)が多いが、精神保健福祉との連携は特に強いようには思えない。
【福祉】文京区は安全で立地も良いため、土地や家賃が高く、生活保護受給者の物件が極めて少なく、また精神への偏見から断られることも多く困っています。
【福祉】比較的、経済的には恵まれている家族が多いと思うが、地域によっては生活保護受給者が多いと感じる地域もある。
【福祉】地区によって差はあるが、町会の活動があり、町会ごとに交流の機会を設けている
【福祉】寺社が多く、子ども食堂など、独自の活動を開催。時には、炊き出しも実施
【医療】障害者手帳で利用可能な公共施設、文化施設も多い。

静かな住環境で治安も良く、交通網も発達している。そのため土地や家賃が高く、居住探しが困難。生活保護の住宅扶助の範囲内の物件が少なく、生活保護受給者が多いと感じる地域もある。

⑸ 支援する・受ける上でのご意見

【一般】就労についてもっと詳しく知りたいです。
【福祉】本人か家族のどちらかが精神障害者の場合はまだしも、両者ともに障害がある場合はキーパーソンが不在の状況があるので、支援する側は困ることが多い。

医療・保健・福祉の連携という視点でみた時の文京区の特徴

◆ いい点

【一般】障害者基幹相談支援センター、社会福祉協議会の働きは大きいと感じる。
【一般】手厚い支援や、社会資源があって、より充実した生活ができる。
【福祉】大学病院も多く、充実している印象が強い。
【福祉】研修等にも病院の PSW 等も参加して頂いていて、情報共有ができるのでありがたい。
【福祉】大学病院が多く医療と福祉との連携が希薄な印象を受ける。人員が増えない中、保健師がそれらの橋渡しも含めて熱心に保健活動に取り組んでいる。
【保健】大学病院が多く、先端医療が受けられる
【保健】大学と連携して先駆的な取り組みができる

基幹相談支援センター、社会福祉協議会の働きが大きい。
大学病院、大学も多く、今後の取り組みが期待される。
大学病院等の情報共有は精神保健福祉士を通じて行われている。

▼　改善すべき点

【一般】精神障害も最近は多岐にわたり、保健相談に来てもらうスタイルもいいが、個別訪問、オープンダイアローグ手法等の医・福・保の連携は進んでいない。
【医療】三者が定期的に集まる“場”がない。会議体、研修会などがもっとあってよいと思う。区が音頭をとってくれるとありがたい。インフォーマルな飲み会などで支援関係者、実務者のネットワーク化が為されている。（あせび会など）
【医療】特に医療の面では、高度医療を提供する病院から地域に根づいた診療所が多く所在しているが、連携については不明な点もある。
【保健】昔より一緒に訪問するというのが少なくなったように感じる。
【保健】医療機関との連携体制の脆弱性がある。一部を除き、医療機関は基本的に「処方」する役割のみで、家族関係性の調整や、生活課題・生活環境を踏まえた「治療方針」について主治医と協議ができる連携体制がない。生活圏域内の医療機関数が充実してはいても、生活と医療は身近な関係性ではない。生活と医療の連携体制が強化されると、本人や家族・関係機関も地域で安心して生活する事が可能となり、支援の連携体制が強化されるのではないか
【福祉】基幹相談支援センターや地域生活拠点が配置されていくことで、より医療や保健、福祉の連携は進んでいくと考えられるが、保健師の役割をどうとらえていくかが課題。医療面のアウトリーチのニーズは高い
【福祉】保健と福祉の連携がまだ定着していないところもあり、担当者による点が多いと思う。
【福祉】ケアマネからの視点で感じることは、生活福祉課のケースワーカーさんと(生保の場合)と保健所の担当保健師さんのつながりが薄いと感じます。保健師さんを通して、精神科の医師などとのつながりが私達にまで及ぶと、もっとチームでその家族を支援していけると思うときがあります。
【福祉】福祉関係者から支援の必要な人が発見された場合は、保健センターとの連携に時間がかかり、精神科など医療に速やかにつながりにくく後見制度の利用などに時間がかかってしまう場合が多い。
【福祉】連携の取りづらさ⇒各機関の機能や役割、活動内容、専門領域の再確認が必要
【福祉】医療機関や各種相談窓口、直接支援に当たる介護サービス等が一定以上にあるためかえってまとまりづらいという印象を受ける。
【保健】各施設とも熱心に取り組んでいるが、多忙ですれ違い気味なことも多く、タイムリーな連携が難しいこともある。
【保健】民間事業所では、LINE や個人メールの活用があるようだが、行政では活用が難しい。

三者（医療・保健・福祉）が定期的に集まる場がない。
医療機関や各種相談窓口、直接支援にあたるサービスが多いため、連携が取りづらい。
各機関の機能や役割、活動内容、専門領域の再確認が必要。
個別訪問等の連携は進んでいない。

家族関係や生活課題を踏まえた方針について、主治医と協議ができる連携体制がない。

基幹相談支援センターや拠点の活動により連携は進むが、保健師の役割をどう捉えていくかが課題。
生活福祉課のケースワーカーと保健師の連携。
福祉関係者から保健師への連携が速やかにつながりにくい。